

# 言葉

広島県立府中高等学校  
第1学年 川上 愛加

自分の考え方を変えるのは難しい。なぜなら、今までに出会った人、今までに見た景色、今までに味わった感情、今までに読んだ本など、今までにしてきたすべての経験が自分の考え方の元になっているからだ。しかし、それを覆してしまおうような本に私は出会った。私の好きなバンドRADWIMPSのヴォーカル野田洋次郎が書いた本である。この本は、二〇一四年二月から七月までの半年間に及ぶ全国ツアー中に彼が書いた日記が元になっている。当時のライブのこと、彼が今までに歩んできた人生、そこから考えたことなどが記されている。彼の口調そのままに記されたこの本を読んでいる間、私はまるで彼の頭の中の思考回路に入り込んだような感覚だった。そしてこの本を読み終えた時には、私の思考回路が変わっていた。彼の言葉が私の考え方を変えたのだ。それは、「合わないところは合わないんだよ」という言葉だ。最初はあの言葉を、どこか相手を諦めているような冷

たい言葉だと感じた。合わないところがなくなるようにすることが正解だと思っていた。中学生時代、私には大好きな友達がいた。バスケットボール部で二人は入部した時からずっと一緒に頑張ってきた。どんなにきつい練習も励まし合って乗り越え、お互いに指摘し合い、高め合ってきた。仲間でもあり良きライバルでもある、切磋琢磨し合える彼女のことが大好きだった。しかしその関係は呆気なく崩れてしまった。私がキャプテンに選ばれたことがきっかけだった。彼女の、キャプテンになりたいたいという思いは人一倍強かった。その思いの大きさを知っていた分、私は彼女にどう接すればいいのかわからなかった。それ以来彼女は私と距離を置くようになり、私も彼女との距離を保つようになった。普段会話をしたりはするものの、以前のよう一緒に遊びに行ったり、お互いの恋愛の話で盛り上がったたりすることはなくなっていた。私は「あの頃」を取り戻したくて、自分の悪かったと

ころを必死に探した。だが、答えらしい答えは見つからなかった。そんな中、まるで視界に私がいらないかのような目で笑っている彼女を見た。とてもむしゃくしゃした。私が今まで信じてきたものは何だったのだろう、こんなことで崩れてしまうような関係だと思つと悲しくなつた。

私はもやもやした感情をかかえながら中学校を卒業し、高校生になつた。そしてあの本を読み、彼の言葉に出会つた。それは、「合わないところは合わないんだよ。許すしかないんだよ」という言葉だつた。本を読み進めていくうちに、初めに読んだ時には感じなかつた気持ちが生かされてきた。「合わないところは合わない」とは諦めではなく、自分と異なる相手の考えも尊重するということだ。そして「許すしかない」とは、異なる点も含めその人自身を受け入れるということだと感じた。もしあの頃にこの言葉に出会っていたら、私たちはきつと、もつと違う終着点にたどりつ



### 〈指導者の言葉〉

本校では、毎年夏休みの課題として読書感想文を書かせており、作品と出会うことによって自分を見つめ直し、認識の変化の過程が読み手に伝わるように分かりやすく表現することを指導しています。

本生徒は、国語の授業が好きで、ことばについて深く考える習慣が付いています。

今回、読書感想文としてこの本を選んだのは、ある作詞家の言葉に本生徒の心に響くものがあったからです。「分かり合う」ということばを理想としてきたゆえに実生活の人間関係で悩んできた本生徒だからこそ、「合わないところは合わないんだよ」ということばに反発も感じ、また自分の経験を振り返って次第にそのことばの意味を考えるようになったのだと思います。

本の中のことばから、自らの在り方や生き方などについて感じたり考えたりしたことを素直な文章で綴っており、ことばに対する感受性の豊かさが伝わってくる作品です。